

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 厚生会

令和5年度 法人事業報告

1. 令和5年度の概況

児童養護施設幸樹園は、社会的養育推進計画に基づき、令和4年8月小規模かつ分散化及び多機能化、機能転換に向けた取組を実施した。

令和5年度より高機能化に向けた取組として、ケアニーズの高い子ども養育体制の充実を図るため、職員の専門性やチームによる継続的・安定的な関係強化及び新たに心理職員を配置することでより手厚いチーム体制の強化を行った。

新型コロナウイルス感染症について、令和2年から続いたコロナ禍は、行動制限や学校の臨時休校など日常生活において大きな影響を受けたが、令和5年5月に感染症法上の位置付けが5類感染症に移行し、一つの区切りを迎えた。しかし、依然として、コロナやインフルエンザなどの感染症流行リスクが存在することから、引き続き万全の備えを図った。

施設の経営について、世界情勢の混迷とあいまって、食料・エネルギー価格の高騰の影響で、給食費・光熱水費が前年比1.22倍となるなど生活費を圧迫し続けている。経営の上で厳しい状況ではあるが、児童生活に対し、一定のサービスが継続できるよう努める。

次に、職員の処遇改善として、措置費事務費関係の大幅な単価改正により全常勤職員に対し、1万円のベースアップを実施した。また、年次有給休暇の取得向上を図り、平均取得日数は11.2日となった。

そして、今年度は11名の職員を採用したことで、新任研修の充実を図るため、各研修項目の講義と実践に力を注いだ。今後、施設の理念・基本方針に基づき、人材マネジメント・人材育成・人材定着に努め、質の高い福祉サービスが提供できるよう取組むと共に、地域における社会福祉法人の存在意義を持ち、地域の人々や関係機関と協力し、地域共生社会の実現に向けて、永続的な福祉事業を展開する。

2. 理事会の開催状況

第1回 令和5年5月29日（月）

- 第1号議案 監事監査報告
- 第2号議案 令和4年度事業報告に関する件
- 第3号議案 令和4年度決算報告に関する件
- 第4号議案 任期満了に伴う役員の改選に関する件
- 第5号議案 定時評議員会の開催に関する件

第2回 令和5年6月20日（火）

- 第1号議案 理事長の選任に関する件

第3回 令和6年3月27日（水）

- 第1号議案 県の指導監査報告に関する件
- 第2号議案 給与規程の一部改正に関する件
- 第3号議案 旅費規程の一部改正に関する件
- 第4号議案 就業規則の一部変更に関する件
- 第5号議案 令和5年度法人会計補正予算書に関する件
- 第6号議案 令和5年度施設会計補正予算書に関する件
- 第7号議案 令和6年度事業計画に関する件
- 第8号議案 職員の人事及び非正規職員等の雇用に関する件
- 第9号議案 令和6年度法人会計当初予算書に関する件
- 第10号議案 令和6年度施設会計当初予算書に関する件

3. 評議員会の開催状況

第1回 令和5年6月17日（土）

- 第1号議案 令和4年度事業報告に関する件
- 第2号議案 令和4年度決算報告に関する件

令和5年度 施設事業報告

子どもと子育てを取り巻く環境や児童養護施設の置かれた状況も大きく変化してきた。子どもや家庭をめぐる課題は複雑化・深刻化し、親の離婚、貧困、虐待や子どもの発達障害などを背景として、個々の児童の特性に配慮した細やかなケアが求められている。

児童養護施設幸樹園では、施設の基本理念・基本方針・重点目標に基づき、児童の抱える様々な問題を捉え、家庭的養育環境のもと、子どものニーズに合った丁寧なケアに努めた。また、退所した者に対する相談やその他の自立のための援助を目的とした養育にあたった。

1. 児童の状況

・入所・在籍・退所状況

令和5年度措置児童数、月平均33名、新規入所児童数10名、退所児童数9名。

一時保護児童数45名、在籍日数1483日。

年度末の在籍児童数は、一時保護児童含め33名となった。

2. 令和5年度主な取組み

(1) 児童の権利擁護

- ① 子どもの権利擁護の Web 研修に支援職員参加し、人権感覚を磨き、養育者としての倫理観や責任感を持って児童に対応できるよう資質の向上を図った。
- ② 意見箱を設置し、子どもたちの声の把握に努めた。また、全児童を対象に生活アンケートを年2回行い、困りごとを把握し適宜対応することで、入所児童の生活の質の向上に繋げた。
- ③ 職員の権利擁護意識の醸成と事故等の防止のため、「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」を実施した。

(2) 児童の養育・支援

- ① 本園4ホーム、分園1ホーム・地域小規模児童養護施設2ホームの7チームそれぞれに、小規模化された新しい園舎の生活環境下で児童との対話を大切にしながら、安心かつ安全な日々の生活づくりに取り組んだ。
- ② 様々な生活援助、学習及び進路指導、行事などの余暇活動を行い各関係機関と連携し、社会的自立や家族再統合に繋がるよう取り組んだ。

(3) 家庭支援

- ① 家庭支援専門相談員2名を配置。関係機関と連携し、家族への働きかけや家族からの相談を受けるなど家庭支援に取り組んだ。
- ② 児童と家族の関係再構築のため、面会・外出・一時帰宅など定期的に実施した。これにより家庭引き取りとなった子どもは4名となった。
- ③ 里親支援専門相談員と情報共有・連携し、施設から里親への移行支援に取り組んだ。これにより里親への措置変更となった子どもは2名となった。

(4) 里親支援

- ① 児童相談所や里親フォスタリング機関によるフォスタリング業務支援に参加し里親と交流を図った。
- ② 他機関と連携し、広報誌の発刊と里親サロンの運営の充実を図った。
- ③ 園内研修で支援職員に対し、里親制度の理解と里親家庭の養育を支援するネットワーク等について講義することで、情報共有と里親支援専門相談員の業務の理解を図った。
- ④ 家庭支援専門相談員と情報共有・連携し、施設から里親への移行支援に取り組んだ。

(5) 学習支援

- ① 基礎学力、学習習慣を身につけることを目的として、学習指導者が中学生を対象に週2回個々の学力にあった学習支援を行った。
- ② 学習ボランティア1名が、「それいゆ」ホームの小学生に対し課題を主に学習支援に取り組んだ。

(6) 治療的支援

- ① 5名の子どもの心理治療を実施した。心理治療は、定期的に精神科を受診し、カウンセリングと内服薬の治療を行った。
- ② 今年度新たに心理療法担当職員を配置した。12名の対象児童に対し、心理療法172回、生活場面面接107回を実施。また、職員への助言及び指導を248回行い、虐待やネグレクトなどの不適切な養育を経験した子どもたちの、養育体験等に起因するトラウマや愛着障害に関する問題について、精神的・心理的問題の解消や軽減を意図しつつ生活支援に努めた。

(7) 自立支援

- ① 施設の退所前の進学・就職等の自立支援及び退所後のアフターケアを担う職員を配置し、入所児童等の退所後の自立に向けた支援の充実を図った。

- ② 自立に向けた相談支援・退所者に対する継続的な状況把握及び相談支援等各関係機関と連携し、対象者20名の支援を行った。

(8) 避難訓練・安全管理

- ① 新園舎の形態に対応するため、防災マニュアル・安全管理マニュアルの見直しを実施し、園内研修において、初動対応や重要業務の役割分担等を明確にし、事前対策・危機管理に努めた。
- ② 避難訓練は、毎月様々な出火場所等を想定し実施した。また、災害を想定した訓練や不審者対策訓練を実施するにあたり、職員連絡網とLINEネットワークを活用することで、短時間での情報共有と対応が可能となった。
- ③ 新園舎に引越したことで、全職員を対象とした消防設備の使用方法的確認及び体験の機会を設けた。今後も、安心・安全を守ることができよう努める。
- ④ 事業継続計画(BCP)マニュアルを作成。今後、BCP計画に基づいた訓練を実施する。

(9) 健康管理

- ① 看護師を中心に、診断医師の指示に従った治療や予防・健康管理に取り組んだ。
- ② 新型コロナウイルス感染症について、感染症法上5類に移行したが、依然として感染症流行のリスクが存在することから引き続き感染予防に努めた。
- ③ 令和5年度の受診状況は、小児内科127件・皮膚科40件・歯科90件・精神科63件・耳鼻科21件・眼科28件・その他41件 総計410件となった。

(10) 関係機関連携と地域支援

- ① 五所川原市、鱒ヶ沢町と子育て短期支援事業委託契約を更新締結。ショートステイの利用実績の延べ件数は38件となった。
- ② 令和5年度は、保育士資格希望者16名の施設実習生を受け入れた。実習生に対し、きめ細やかな対応支援を行いながら、児童養護施設に興味を持ち、働きたい職場環境を感じられるよう努めた。

(11) 職員の資質と施設運営の向上

- ① コロナ禍で研修開催の中止が多くなる中、Web研修などを活用し、階層別研修や専門職研修に参加させ、スキルやキャリアアップを図った。
- ② 職員会議、支援会議、リーダー会議、運営会議等各会議を適宜行い情報の共有化を図り、施設運営向上に努めた。

令和5年度 行事一覧

月	行 事	月	行 事
4月	新入学お祝い会 家庭科クラブ（プラ板作り）	10月	施設交流野球大会 家庭科クラブ（ハウインお菓子作り） 紅葉狩り（はるかぜ） 弥生いこいの広場（あゆむ）
5月	ピクニック（はるかぜ・それいゆ・ ひかり・すばる） 家庭科クラブ（パフェ作り） 小学校運動会 中学校運動会	11月	家庭科クラブ（フクロウ作り） 青森ワッツ試合観戦 劇団四季ミュージカル鑑賞 ボウリング（それいゆ） 映画鑑賞（こすも） 浅虫水族館（ひかり） 児童健康診断
6月	家庭科クラブ（紙コップ作り） BBQ（あかつき）	12月	クリスマス会 家庭科クラブ（クリスマスケーキ） トランプ リンスタジアム（あかつき） 映画鑑賞（すばる） 歯科検診
7月	家庭科クラブ（パンケーキ作り） 映画鑑賞（あゆむ） 県養協施設交流会 サッカー観戦	1月	家庭科クラブ（鬼のでんでん太鼓） 映画鑑賞（こすも） カラオケ（はるかぜ） アイススケート（それいゆ） 五一高バスケボール体験教室
8月	キャンプ（全ホーム） 家庭科クラブ（かき氷作り） 夕涼み会	2月	豆まき 家庭科クラブ（メモスタンド作り） スポーツクラブ活動 映画鑑賞（ひかり）
9月	家庭科クラブ（ハロウィンの箱） 地域交流事業	3月	卒園生お祝い会 家庭科クラブ（クレーンナップ作り） ホームパーティー（各ホーム） 高校3年生体験旅行

令和5年度 職員研修

月	研修名	内容
4月	園内研修	CSP 良い結果・悪い結果
	産業保健関係者研修	職場環境改善の進め方
5月	園内研修	CSP 効果的な褒め方
6月	園内研修	CSP 予防的教育法
	全国春季セミナー	生と性の実践・リスクとトラブル回避
	東北ブロック児童養護施設研究協議会	各関係機関との地域連携 入所前から退所前までの支援 退所前後の支援と協働
	社会福祉施設職員経理研修 Web	経理規程及びその個別解説
	子ども虐待防止セミナーWeb	トラウマケア・ストレスの脳と身体への影響
7月	園内研修	CSP 問題行動をたただず教育法
8月	園内研修	CSP フォローアップの教育法
	社会福祉施設職場研修担当者研修	福祉人材育成と職場研修
9月	東北ブロック児童養護施設専門職員研修	家庭支援専門相談員・里親支援専門相談員との協働
	全国社会福祉法人経営者大会	社会福祉法人をめぐる動向と取組・社会課題の解決、生活困窮への支援
	日本子ども養育研修会	チームケアとスーパーバイズ、メンタルヘルス、専門職としての意義、子どもの権利
	園内研修	安全管理・不審者対策
10月	園内研修	性教育・里親支援
	SBI 心理職研修	心理療法、心理的ケアの現状 虐待が子どもに与える心理行動上の特徴
	青森県児童養護施設協議会職員研修会	子どもたちについて理解を深め、より適切な関りを目指す
	新型コロナウイルス感染症等対策研修会	新型コロナウイルス感染症等の対策の基本 防具服の着脱・手洗い
	青森県児童福祉施設等職員研修	児童福祉施設における LGBT 児童への対応
11月	防災研修会	避難のタイミング・非常持ち出し袋
	全国児童養護施設長研究協議会	社会的養護施策の動向・児童養護施設が果たす役割機能と進むべき方向・チームアプローチ

1 1月	BCP 策定研修	事業継続計画・事業継続マネジメント
	福祉職員キャリアパス対応生涯研修チームリーダーコース	チームリーダーとしてキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念と倫理の推進 業務課題の解決と実践他
	園内研修	衛生管理・感染症対策
1 2月	子ども虐待要保護児童対策研修会	虐待から子どもを守るために知っておきたいこと
	県経営協 AI 研修会	福祉現場のための AI・文字起こしから要約
	社会的養護を担う児童福祉施設長研修会	子どもの意見、意向支援と自立支援計画策定 社会的養護施設におけるスーパーバイズ体制の構築
	多機関による幼保の歯科口腔保健研修会	子どもの健康、肥満その他の成人病 小児の口腔機能発達不全症
	性的虐待等に関する専門研修 Web	子どもの心を理解するために
1 月	園内研修	ケース検討
2 月	園内研修	子どもの権利擁護・ハラスメント防止
	青森県経営協セミナー	人口減少局面における社会福祉法人経営 地域に根差し、地域を巻き込んだ取組
	全国児童養護施設中堅職員研修会	人材育成の基本・資質と倫理・子どもの権利 擁護・子どもの支援技術・チームアプローチ
	青森県里親・ファミリーホーム職員研修	被措置児童等虐待防止について 虐待を受けた子への支援のあり方
3 月	園内研修	入退所書類確認